

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今ほど市長が述べましたように上南大学、上南地域でやってる大学名でありますけども、私これ見まして、ネーミングも大変すばらしいものもありますし、地域でみんなで学ぼうという姿勢があらわれているのかなというふうに思っております。上南大学の内容については、ことし7月の17日に県の公民館大会が聖籠町で行われまして、伊藤館長からその取り組みの報告をされたところであります。公民館のさまざまな活動そのものについては、「集う、学ぶ、結ぶ」という大きな3つの大原則があるわけでありまして、今、議員おっしゃられますように、とにかく学ぶ、集う、学ぶといえますか、生涯学習の学習の点に重点が置かれてまいりましたけれども、今後、結ぶという地域の活性化を図る上で、いろいろな団体と協力をし合いながら地域の課題に取り組んでいくという姿勢が必要だなということでありまして、この上南大学につきましても、そういう第一歩であるのかなというふうに思っております。今後、こういうところのモデルを活用して、21の公民館全体で共有するような取り組みを図ってもらいたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

お隣の上越市では、長年、市民まちづくり大学ということで、まちづくりに特化したカリキュラムを持っていっているようですけども、内容を見てみますと、地域活動、市民活動をするに当たっての基礎的なことを学ぼうということですね。この大学によってオピニオンリーダーが大勢輩出されていたり、NPO活動が盛んなんですね。それから、外から転入された方たちが受講されて、地域に入りやすいというふうな効果が結構あるというふうなことも聞いております。

したがって、地方創生の大きな役割を果たしているんじゃないかなということで、こちらのほうもぜひ参考にさせていただきたいというふうに思います。

それから、いずれにしても、これからの将来を見据えた場合、今回の地方創生の総合戦略を描いた戦略どおりに進めなければならないわけですし、それには行政も組織団体も、そして我々市民も地方創生を自分事として受けとめて進めることが一番大事だというふうに私は思っております。

これで私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（倉又 稔君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

○20番（古畑浩一君）

おはようございます。奴奈川クラブの古畑浩一でございます。

これより一般質問をさせていただきますが、本日冒頭、一般質問に先駆けまして、教育長の突然

の辞意表明は、まことに青天のへきれきであります。私の一般質問とも関連することから動揺が隠し切れませんが、予定どおり一般質問通告書に従い質問をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

1、糸魚川白嶺高校の学級減に至る経過と影響について。

- (1) 平成28年度から2年間の高等学校等再編整備計画案において、糸魚川白嶺高校の現状4学級を3学級にすることが決定された。

受験生の減員を主な理由としているが、9月定例会一般質問でも申し上げたとおり、28・29年度の中学生卒業見込数は減員どころか増加しており、市外からの受験生も増加傾向にある。今回の県教委の決定には納得できないものがあり、高校・中学のPTA、同窓会ははじめ、議会、経済団体よりの学級維持を求める署名や意見書も無視された形となった。学級減決定に至る経緯についてお聞かせいただきたい。

- (2) 糸魚川白嶺高校は、地元就職率も高く、貴重な人材を輩出する地元に着目した教育活動を行う地域貢献の高い学校である。現在糸魚川市では少子高齢化に歯止めをかけるべく「まち・ひと・しごと総合戦略と人口ビジョン」を策定したが、同校の学級減は若者の地元定着に対しても著しい悪影響を及ぼすと考えますがどうか。

- (3) 糸魚川白嶺高校の学級減に至る経過とえちごトキめき鉄道における朝夕の通勤通学時の混雑解消については、どのように対処するのか。

2、教育大綱の策定と教育委員会のあり方について。

- (1) 大綱策定の背景と趣旨について。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、行政と教育委員会のあり方はどう変わっていくのか。

- (2) 0歳から18歳までの「子ども一貫教育」をどのように推進し、具現化していくのか。高校、県教育委員会との方針調整、魅力ある新学科づくりなど、どのように実現していくのか。

- (3) いじめ・不登校の実数の推移と対応について。

ひすいルームや保健室通学など不登校にカウントされない子どもの実数と実態は。また、いじめ・不登校の原因と対策についてはどうか。

- (4) 再発防止を約束しながら、依然として続く給食の異物混入。食の安全と安心を揺るがし、信用を失墜させた責任についてどのように考えるか。

3、新幹線開業効果と駅周辺の整備計画について。

- (1) 待望の北陸新幹線が開業し上半期を経過した今、その経済効果はどのように現れたか。

- (2) 新幹線開業を見据えて、長年協議されてきた駅周辺整備計画ですが、北口の空き店舗対策、南口の空き家対策についてなど、いまだ具体的な方針が示されていない。

新幹線時代に対応したまちづくりを今後、どのように進めていくのかお聞かせいただきたい。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

一番目の１点目につきましては、９月定例会でお答えしたとおり、８月１９日に県教育委員会に対し、学級減に対する遺憾の意を伝えてまいりましたが、その後も市として学級減を２年間猶予いただきたい旨を要請してきたところであります。

さらに、市内の３中学校ＰＴＡから９月２４日に提出された要望書等の署名を翌２５日に県教育委員会に手渡し、保護者の意向を伝えてまいりましたが、残念ながら１０月２６日に開催の県教育委員会において学級減が正式に決定されたところであります。県教育委員会が署名や市議会意見書を受理した後、改めて県全体の定員割れの状況や生徒の進路希望等を総合的に検討した結果、学級減の方向は変わらなかったわけであります。

２点目につきましては、学級減の影響を注視するとともに引き続き白嶺高校と連携をし、学校の魅力づくりに努めてまいります。

３点目につきましては、通勤・通学時の混雑時解消に向けて車両の増設を、引き続きえちごトキめき鉄道へ要望してまいります。

２番目の教育大綱の策定と教育委員会のあり方についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

３番目の１点目につきましては、上半期の観光入込客数は、約４０万人増加しており、その経済波及効果は観光庁の測定モデルを使って推計しますと、交通費を除く直接効果は約１１億円と試算されます。

一方、市内企業の前期景況アンケートによりますと、北陸新幹線効果は、まだ見えてないとの結果も出ていることから、今後とも市内の周遊性を高めて、市内全体での入込客数の増加を図る取り組みが必要と考えております。

２点目につきましては、新幹線開業と合わせて中央大通り線、駅南線、自由通路などが整備され、交通の流れも変わっていることから、新幹線時代に対応したまちづくりに向けて、都市計画も含め、市全体の市街地のあり方を検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

２番目の１点目につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、教育に関する事務の執行権限は、引き続き教育委員会が有することとなります。

その一方で、市長による新教育長の任命責任、総合教育会議や教育大綱の策定を通じて、教育行政における市長の役割などが明確化されたことから、行政と教育委員会とがさらに連携をとる仕組みが整ったと考えております。

２点目につきましては、推進に当たっては、教育委員会、学校・園、保護者、地域がそれぞれ情

+

報共有できる機会を設営し、取り組みを検証しつつ、より連携を強めて取り組んでまいります。

また、高校の魅力を高める取り組みを地域や産業などが一体となり、検討を進めていくことが大切であると考えています。

3点目につきましては、昨年度の小中学校のいじめ件数は60件で、実数の推移は19年度の41件から毎年減少傾向でありましたが、いじめの認知に対する指導により、昨年度の件数は増加したものと考えています。

また、昨年度の小中学校の不登校件数は23件で、実数の推移は20年度の48件から減少傾向であります。

次に、不登校の児童生徒は10月末現在で16名、不登校傾向は13名となっています。26年度の場合、不登校の原因と考えられる状況は、学校に係るものが4割、本人に係るものが4割となっています。いじめの対策は、いじめ防止条例、いじめ防止基本方針に基づき、早期発見と早期対処を基本に取り組みを進めております。不登校の対策は、不登校傾向の段階から児童生徒が抱える悩みや不安の把握に努めております。

4点目につきましては、再発防止に取り組んでいる最中に新たな異物混入が連続して発生したことにつきましては、安全・安心な給食を期待する児童、生徒、保護者の信頼に応えられなかった責任は大変重いと受けとめております。調理現場の職員はもとより、教職員や食材納入業者にも注意を促し、それぞれの立場で再発防止に取り組み、信頼を回復してまいりたいと考えております。

以上です。

+

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これから2回目の質問をさせていただきたいというふうに思っております。

教育長、図らずもきょうは最後の議会となるようなんですけどね、ひとつ元気出して一生懸命答弁よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、1点目なんですけれども、これもうずっと言い続けてきたんですが、白嶺高校の学級減。平成26年度の市内4校の卒業生は369人、対して来年27年度は383人、再来年度の28年度は395人。減るどころか増加しておる。こういった現状につきまして、こうしたデータをもとにですね、再度、県教育委員会のほうへ交渉へ行っていただいたと思うんですけども、そのときの経過。また、それでもなぜ減らさなくちゃいけなかったかという答弁について、県教育委員会はどのように言ってるのかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

確たる、それに対する的確な答弁というのは、得られなかったわけですが、上越地域全体の卒業生の状況並びに受験する中学３年生の進路の希望等を総合的に勘案した結果というふうなお答えでございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

副市長はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

９月９日にですね、県の教育委員会へ参りまして、今申し上げましたとおり、来年、再来年と受験生が多くなるんだということをデータを示しまして、その辺で少なくとも２年ぐらいいは延期をしてもらいたい。学級減を１年なり２年間延長してもらいたいということを要請してまいりました。ただ、そのときは要請しましたけども、いろんなやりとりの中では、相当見解の相違もあったなというふうに考えております。

ただ、きちんと要請だけはしたんですけども、その結果についてはまた後ほどですよという話になったということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

市長、教育長、教育次長、副市長、再三再四、県のほうへ要望へ行った。しかし、その願いはかなわなかった。このことについて、糸魚川の長としてのご感想をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に残念に思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

１つのうがった考え方ですが、そのすぐ後、新潟県内の公立校１４校以上減少するという新たな高校の再整備計画出ましたよね。これの既成事実をつくるためには、どうしても白嶺高校を４学級

+

から3学級にしなくてはいけなかったのではないですか。その辺につきましては、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

それとの関連性は明確な説明はございませんが、ある意味そういった見方もできるのかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

私も、もれ信頼できる筋からお聞きした、この陳情や学級維持に対する要望行った時点では、既にこうした方針案を再編成案をもう県教育委員会は持っていた。

したがって、どうしてもこの設計図どおりやるためには、白嶺高校3学級にしなくちゃいけなかった、統廃合の対象校にするためにね。この件につきましては、後ほど違う項目でね、もう一回改めて聞かさせていただきたいと思いますけれど。ただ、自治体の長として糸魚川の実態が減ってもいない学級を減らされなくちゃなんらんということについては、もっと強烈に私は遺憾の意を示すべきだと私は思います。

そこで、じゃあ何で遺憾なのかなんです。先ほども1回目で、もう聞いておりますけれども、やはり総合戦略の中において、夢をかなえて、若者や女性が輝くまちづくりを実現する。その中においては、若者定着、就職をさせていく、人材を確保していくという大事な項目。その1つの大きなキーワードが高校生の地元定着だと思うんですよ。今回の学級減に対するこうしたことに対して、著しい悪影響、暗い影というものを私は感じるんですけども、この件につきましては、担当課、どのように対応していくのかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回の白嶺高校の1学級減、子供を産み育てる上では、教育環境というのは本当に大変重要なものであるというふうに思っております。今回の白嶺高校の1学級についても、当然何らかの影響は出てくるものというふうに思っておりますし、特に今後、移住・定住政策を進める上では、高校の定員に余裕がないということは大きなことだと思いますし、もう1つ懸念されることが、子供たちの進学希望にもよりますけれども、市外へ通学する子供がふえた場合の影響ということで、今回の学級減により、どのような影響が出るか、入学者の内訳とか市外の進学数、それから市内就職数など、そういう数値的な分析が大変重要だと思っておりますし、もう1つはやはり海士町のように廃校の危機から2学級減まで戻したという、そういう実例もありますので、やはり学校の魅力づくり、

そういったことが非常に重要になってくると考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

有効求人倍率と人材確保、さらに糸魚川の子が、いわゆる市外へ行くということは、それだけ視野も広がるし、さまざまな部分での雇用機会、糸魚川市外の部分の雇用機会も広がっていくと思うんです。こういったことに対する考え方ということは、担当課としてはどのように危機感を持っていらっしゃるのかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今、有効求人倍率の話をいただきました。やはりもっともっと地元企業の魅力を、我々はもっとPRするべきでないかというふうに考えておりますし、あわせて海洋高校のようなビジネスチャレンジ、そういうところにも、もっと支援していくように私ら高校に足を運ぶ必要があるなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

私は、今の状態でも地元企業の皆さんは、高校生が自分の会社に来てくれないということで、大変雇用確保に困ってらっしゃるんじゃないか、ここをお聞きしたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

個々具体的に、そういう企業からのお困り事は聞いてはおりませんけども、有効求人倍率とのギャップが生じてるわけでありますので、それは先ほど申し上げましたように、もっと地元企業の魅力を、我々しっかり発信する必要があるなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

それ聞いてないっておかしいんじゃないですか。地元雇用創出事業、地元就職促進事業って全部、斉藤課長、あなたのとこの所管じゃないんですか。そこで何で企業から人が来なくて困ってるという声が聞こえてないんですか。何でそう、人ごとみたいに答弁してるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

困っとる実態は、個々には聞いておりますけれども、総合的にお話しできるような状況まで情報として今持ち合わせておりませんので、そのような答弁とさせていただきます。申しわけありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

やはり認識が甘いんですね。まさかこの質問で自分のところに答弁が来ると思ってなかったんでしょ。これは、また委員会の中でも言いますけれども、さまざまなデータ、まさに子供1人が、もう虎の子一匹ですよ、地域の宝、私は1人として外へ出したくないんですよ。残っていただけるんなら1人でも多く残っていただきたい。そういうつもりで質問しているので、必死に皆さんも危機感を持って答弁をしていただきたいと思っております。

さて、次行きます。

えちごトキめき鉄道には、朝・夕の通勤通学の混雑解消についてどのように交渉しましたか。どのようにお答えが来ましたかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

えちごトキめき鉄道にはですね、朝、通勤時間帯を中心に、やはり車両の増設ということで、2両編成のものについては3両に、それから1両編成のものについては2両にということで、要望をいたしております。

その回答といたしましては、車両の増設については、保有する車両をフル回転している状況なので物理的に厳しいが、それと車両入り口付近に立っているお客様が多いので非常に混雑しているように感じるのではないかと。乗車マナーの問題もあり、車内放送等で協力を求めていくというような回答でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

前回の一般質問で言ったとおりなんですけれども、糸魚川には私立の高校ありませんよね。そうならば1学級分、40人から50人が市外へ通学するということになる。そうなら当然今の状況よりもさらに混雑が厳しい状態になるということなんです。

市長、我々議会も樋口特別委員長を先頭にですね、議会特別委員会でえちごトキめき鉄道のほうに要望に行きました。そのときの嶋津社長の答弁は、車両をふやしたけりゃ金を出せと言うとるん

ですよ。これについてはどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

そのようなことを端的に言ったのかどうかはあれですけども、えちごトキめき鉄道の職員から聞くそうですね、そんなに露骨な言い方はしなかったようなことを言ってますけども、実際どうかかなと思ってます。ただ、確かにえちごトキめき鉄道のほうではですね、私も取締役ということで関係するわけでございますけども、すぐ金がない、金がないという話は特に聞いております。

ただ、車両につきましては、先般私らのほうでも増設を要請したところであります。2両から3両、それから1両から2両ということであります。

ただ、その中で、内々ですけども資料を頂戴してる中では、今回、朝ですけども、糸魚川発6時53分で直江津着7時35分ですが、定員226人のところなんですけども、乗車率につきましては、60%前後だという数字を頂戴しております。

そういったことで、それから見ますと、まだ2両編成でも余裕があるというふうに聞いてるところであります。

ただ、それにおきまして、今後どれだけ増加するか、その辺を推定した上で、また増設について要望したいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

車両をふやしてほしかったらぜひお金を、予算を出してくださいというふうに言いました、確かにそういう極端な言い方じゃなかったけど。そういうふうに言った、ちょっとそれを厳しく言ったんですけどね。ただね、そういうことなんですよ、表情は非常に厳しかったですよ。

それから、さっきも言ってるように、じゃあ来年からの学級減に対する受け入れ態勢って1つもできてないということを私はここで言っとるわけですよ。あの中でも、委員の中から子供が列車に乗りたくないから自分の車で送っていくとか、やはり入り口付近にある高校生、3年、上級生がいるから下級生が乗りにくくて、乗れなくて遅刻したという現状がある。しかも1時間ほどの長い通学列車の中において座ることもできないんですよ。車内の雰囲気が非常に悪いという、そういうことについての認識はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

確かにですね、混雑はしております。私も乗ったときも150人から160人乗ってありました。学生さんについては、立ちながら本を読んで勉強してるというような実態もございます。そういう

+

のを見ますと、やはり車両の増結というのは、必要なのではないかというふうに考えてはおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

今の言葉、副市長に聞かせてやりたかったですね。あなた、えちごトキめき鉄道の役員ですよ。役員としてそういう自覚はないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

先ほども申しましたとおり、私も増設を要望してるところであります。

それともう1つ、車両の増設だけではなくて、もう1つ要望してるのは、今、糸魚川駅7時59分発の快速、新潟行きですけども、これを7時半ごろに発車できないかと、そうすればですね、何といいますか直江津まで早く行けるということでありまして、できたらその辺のダイヤ編成も一緒になってお願いをしてきたところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

その件につきましては、特別委員会でも要望してきました。県の交通政策局にも行ってきたけど、あんまりよい返事とは私は感触はなかったけども、副市長、来年、もうダイヤ編成の改正の時期なんですけども、来年に間に合うようになりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

そういうことで要望してきたんですが、わかりましたという返事は頂戴してないということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

JR東日本も、えちごトキめき鉄道もみんな都合のいいときは、我々は公共交通機関だと言う。都合が悪くて、ふやしてくれと言うと、すぐ我々は民間企業なんで採算のとれないことはできないと言う。それからもう1つ、えちごトキめき鉄道は車両不足を解消するためには市振・糸魚川間の

列車を、ダイヤを改正して少なくする。そうすれば、その分の余った車両を糸魚川・直江津間に回すことができるという、まさに交換条件みたいなこともっておりますよ。それは聞いてますか、副市長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

その話については、私は聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

何のために糸魚川市が出資をして、JR分の固定資産税を免除して、全ては交通機関として地元の足として守るため。しかも、何のために行政が執行役員として入ってるんですか。それは、こういったときにちゃんとして物も言えるように、出資をすることで株主になって、そして役員になることによって物が言えるようにする。これが開業前の約束だったんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

確かに、基本スキームはそのようなものであります。

ただ、出資者といいましても、一番大口はやっぱり県であります。それから、今JRのほうの関係でございまして、特にえちごトキめき鉄道だけでダイヤ編成ができないという話も聞いております。やはり、特にJR西日本、それからJR東日本と両方との調整があって、大変難しいという話も聞いております。

ただ、私も取締役ですけども、その点につきましては、非常に歯がゆい気持ちでいっぱいであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

開業前は利便性の低下にならないように県が責任を持つと言ってるんですよ。その言葉とか忘れちゃいかん。私だってずっとこの件については、かかわってきた。一つ一つの言葉を担保しとかなきゃだめですよ。県がこういったから無理だ、JRがこう言ったからだめだ、えちごトキめき鉄道がこう言うんなら不可能だ。だめな理由ばかり言っとるんじゃないですよ。幾ら多い、一番の株主が県であったって、我々が規模小っちゃくて、100億も何十億も市民の血税を出しとるんじゃ

+

ないですか、しかも継続的にですよ。固定資産税を免除していくということは、継続的に補助していくということじゃないですか。そこは、しっかりもう一回肝に銘じてやってください。きょうは先急ぎますんで、次行きますけどね。

教育大綱の策定と教育委員会のあり方について。これね、竹田教育長の辞任というのは、大変大きな意味を持つんですよ。竹田教育長の辞任によって、いわゆる旧来型の教育委員会の特例期間が終了して、新たな人事が決定すると同時に新教育長制度へと移行していくんです。この件につきまして、どのように認識してますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

私自身12月末をもって辞任したいとの旨、教育委員会です承されました。その際にもいろいろとお話をさせていただいたわけですが、1月1日からは新教育委員会制度に移行していくと。市長と市長部局と、それから教育委員会との間が近くなって、今以上にいろいろな教育課題に対して動きが早くなる、そういう長所もある。

ただし、忘れてはいけないのは、教育委員会としての自立性というものがきちんと確保されるように考えていくということも大事であるというような話をしながら、あるいはそういう指導を受けながら、もう少しどうにかできなかったのかというような、いさめもお叱りも受けました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

この教育基本法の今回の改正、この意義というのは一体何なのか。そして今、教育長もおっしゃられましたけども、一体何が変わるのか、簡単に教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

お答えします。

今回の制度によりまして、これまでの教育委員会では教育委員長と教育長の2人がいて、どちらが責任者かわかりにくいというふうな点がございましたが、新しい制度につきましては、市長が任命する教育長が教育行政における責任体制のトップになるということで明確化、責任が明確化されること。さらに、教育委員会とは別に、市長と教育委員会で構成する総合教育会議を市長が招集して開催することができますので、緊急時等につきましては、早急に市長が開催して、いろいろ教育委員会と調整をすることができるということで、今まで以上に地方公共団体として教育政策に関してかかわりが大きくなるという点がございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

11月18日に総務文教常任委員会に出された糸魚川市教育大綱の策定について、これを策定したのはどなたですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

教育大綱につきましては、先ほど言いました市長と教育委員会で構成する総合教育会議において協議・調整をし、市長が策定するものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

この教育大綱は、米田市長、あなたがつくった、その認識はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

出席をして策定に加わっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

だから市長、その認識じゃ、もうだめなんです。これはもう市長の責任においてつくること。そしてそれは、教育委員会と総合教育会議の中で、いわゆる検査・見分をしてもらって、市長がおっしゃるこの案ならいいでしょうということで変わってくるんですよ。今までは、教育委員会がつくったものを市長が最終的には目を通す、要するに協議制の中において決めていくということで決まってきた。もう一度お聞きしますけれども、こういった大きな変革ということについては、市長自身、その責任を自分が有しなくちゃならないということについてちゃんと覚悟はできてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

この会議を設置したときからそのつもりであります。変わっていくという1つの今、変換期の中

+

でつくりはいたしました、その会議において大綱については、そのような捉え方をしています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

教育行政の最終責任者を自治体の長とすること。自治体の長には、教育長の任命権とともに罷免権も与えられる。これによって選挙公約を実現し、教育施策に民意を反映できるという大きなメリットがあります。反面、大衆受けする政策を思いつきで教育現場に導入するなど政治が学校現場に過度に介入することに対する根強い不信がある。自治体の長がかわるたびに方針が変わることへの不安もある。

こうしたメリット・デメリットがここの中にはあるんです。賛否両論も非常に大きい。専門家の間では反対の声のほうが大きい。こういったことも自覚されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりその辺を我々も心配するところでもあります、なかなか意見も、我々の意見が通らない部分もあったり、また逆に、今言われるような教育現場においては、そういう不安も当然、こう抱えるんだろうなというのを感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

教育委員会が開かれるのが月2回程度、実際には事務局の案を追認するような、形骸化してるといったことが大きな批判でした。教育委員会は、今回の件によって自治体の長の附属機関、いわば格下げとなります。審議や勧告によって政治的な影響を監視するような役割を担うことになるんです。では、その教育委員会、そういう自覚はできているのか。さらに、総合教育会議との位置関係、これはどうなっていくんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

教育委員会の独自性というのは、独立性というのは、保たれていると自分自身では思っておりますし、法令にもそのように書かれているわけです。総合会議そのものを首長が招集し、そこで教育委員とともに教育課題について話し合いをする。これについては非常に重要なことであると。市の課題としても、あるいは教育委員会の課題としても取り上げることができるので、非常に重要だと

思います。教育委員会としては、先ほど議員が言われたような重さというものはきちんと捉えておりますし、教育行政の中で、とにかく学校に対しては教育の中立性ということは、きちんと捉えて訴えていくつもりでありますし、そのような動きにはならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

単に制度が変わっただけではなくて、大きな意味と変革をもたらすことにもう少し市長部局も、ましてや教育委員会としてもっと勉強しとかんとだめですね。ぴんときてないでしょ。ましてや、私、傍聴議員でしたけれども、糸魚川市教育大綱の策定について教育委員会が説明してるのがおかしいと言ったでしょ。それは、市長部局も同席、いなけりゃやはりおかしい。それから、政治的中立性の確保、方針の継続性と安定性の確保、地域の人たちの参加できる住民の意向を反映するという教育委員会制度の3つの大原則ということは、担保できるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

地方教育行政の法律の関係で、今ほど説明していきましたような改正点がございます。教育の中立という部分については、今回の変更と前後で何も変わることはございません。大きく変わるの
+
は、先ほどの総務課長のほうで申し上げました最終的な教育行政の責任者が、市長が任命をする新教育長にある。したがって、統括的な任命責任という意味でも市長が最高責任者になるという部分であります。教育委員会と市長部局と市長との調整・連携という意味では、制度的に総合教育会議というのが位置づけられたことによって、そこでの制度的な調整・協議ができる。それが速やかにできるということであります。したがって、政治的な中立の部分での教育委員会の制度は、今回の法改正で特に変わるものではございません。したがって、教育委員会の教育の執行の責任は、教育委員会が担うということになってまいりますので、その点は特に変更がございませんのでご理解をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

特に大きな変更はないというん、やっぱり認識が違いますよね。まあいいですわ。

先行きますけど、政治的中立性の確保も今後継続していく。すると、初日の一般質問で松尾議員が質問して途中で終わってますけど、教育委員が政治的ピラに名前を連ねた事件で、深く陳謝をした教育委員会。それを教育長の竹田教育長が市議会議員の後援会総会へ出席をした。これについて謝ったんだか謝らないかよくわかんないですけども、あれは一体どういう経過だったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

後援会から来賓としての招待を受け、そこに参加した、こういうことです。政治的な中立ということが保たれているのかというご質問かなと思うんですが、安易に参加してしまったのかなという思いもあるんですが、後援会からの声かけであるし、来賓であるというところに甘えてしまったのかもしれないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

私は教育委員としての是非を聞いている。出ていいんですか、悪いんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

これは問題であれば出てはいけなかったのかなと思うんですが、自分自身では、後援会から声かけられた会である、来賓として声をかけられたのだから、そんなに問題はないのかなという思いで出たわけです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

教育長が混乱しているようなんですが、市長、今後はこういったことのトップになっていくわけなんですが、こういったことで政治的な中立性の確保、政治家等の後援会に教育委員が出席してもいいのか悪いのか判断をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほど教育長は、後援会と言ってるんですが、あれは建設産業常任委員長就任祝いという公の職の就任祝いということであつたかと思っております。そういうようなことで、公の職の、やはり就任の要請に対しては、私はよかったと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

建設産業常任委員会委員長という公職につかれたことに対する来賓での扱いなら構わんということですね。これは1つの見解としてやっぱり示しておかんなん。じゃあ市長の総会はいいいんですか。市長の総会には、私の記憶では教育長とか教育委員長出席してませんでしたかね、あれはいいいんですか。違ったら違ったらって言ってください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ちょっと記憶に定かではございませんので、今のところちょっと不明でございます。出ておられたか、出ておられなかったかちょっと私記憶にないので、お答えできません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

記憶にあってもなくても、いいのか悪いのかと聞いとるんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私といたしましては、市長という立場であるわけでありまして、その後援会の総会というのは、どういう捉え方をするかというのは、ちょっとこう、まだ少しく、わかっとなんとかがございますので、望ましくないかなというような今気持ちであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

市長ね、それでいいんですよ。今回の新しい移行することをきっかけに、きれいに線引きしましょう。いいとか悪いとか、だろうとか、いいんじゃないかなみたいな曖昧なことはやめましょう。きっちりと教育委員会としては、やっていいこと悪いこと、教育委員の活動範囲はどこまでなのか、これをしっかり定めましょう。そのときそのときの立場や言い方で変わっていくようなのはだめ。わかりますよね、そこはしっかりやりましょう。それが新しい教育委員会に移っていく、これいいきっかけだと思うんです、責任なんか問いませんよ。これからのことを言ってるんでね、私は。だったらルールをしっかりとつくって、それをきっちりと守るようにすればいいじゃないですか、教育にかかわる者としての責務はね。

+

それから、先ほども今ちょっと金子部長からも説明がありましたけれどもね、いわゆる教育委員会とこの教育総合会議の二重構造になるということなんですよ。そこの力の位置関係というのはどうなっているのかと聞いてるんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

教育行政を執行していくという部分については、教育委員会が担うということで、先ほど申し上げたとおりでございます。市長部局、市長と教育委員会との調整について総合教育会議があるということなんで、上とか下とかという関係ではなくて、市長と教育委員会との調整ということで、通常の教育行政の執行は、教育委員の皆さんの会議が議決機関として執行されていくということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

そこをやり続けると時間がないんで、次行きますけど、0歳から18歳までのね、今回の大綱で示されている「ひとみかがやく日本一の子ども」、0歳から18歳まで子ども一貫教育という大キャッチフレーズから、「わがいといがわ」上から読んでも下から読んでも「わがいといがわ」、ここに大キャッチフレーズを変更するんすか、回文だそうですけどね。こういう言葉遊びしてる暇はないと思うんですけどもいかがですか。これ市長、決めたんじゃないの、見てないの。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

今回の教育大綱の基本方針といたしまして、「わがいといがわ」ということで、糸魚川を愛し、胸を張って「わがいといがわ」と言える人づくりということを基本方針とする中で、その中の教育の基本方向として2つ掲げておりまして、一番目が「健やかで生涯学び続けるひとづくり」ということで、これにつきましては、生涯学習とかスポーツ・文化等ございますし、2番目といたしまして、その中でも0歳から18歳までに特化した「市民総ぐるみのひとみかがやく0歳から18歳までの人づくり」という形でさせていただいております。これをまとめて大きい意味で、「わがいといがわの人づくり」というふうにさせていただいたものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

だから思いつきでそういうことをするなて、さっき言ったでしょ、大衆受けする政策を思いつき

で教育現場に導入するなど。きのうも伊藤議員、その前からいろんな方がこの日本一問題はやりますけれども、これやっぱり日本一という市長の公約として出して、それが教育委員会がキャッチフレーズとして使った以上、知・徳・体をいうなら日本一の知、日本一の徳、日本一の体、これを言いかえると学力、奉仕活動、スポーツ、そして子育て環境と制度の熟成、それぞれが日本一となるための具体的な方針を定めていくべきじゃないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

糸魚川市子ども一貫教育方針ですが、今見直されておりますが、その中におきまして今、「わがいといがわ」について、その中でうたわれておりまして、それを踏まえた上で使わせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

答えてないじゃん、何にも。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に今、ご指摘いただいたについては、やはりそれは全然違った方向には行っていないと思っておりますので、そのようなご意見を踏まえて進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

この件は、きのうも伊藤議員が延々やっても満足のいく回答が出なかった。日本一、何を目指して日本一にするのか、これがわかりづらいんだから、それを明確にして、要するに日本一の知として学力、体として、いわゆるスポーツの育成だとかと体系的に整備してつくっていったら日本一の子供づくり、子育てづくりって、子育てプランとかってまとまりますよと提案してるんです。そうすればいいじゃないですか。それがしないから、みんなに何で、何でって言われるんじゃないですか。

それから、渡辺副議長が委員会の中でも言っていましたけれど、一貫教育日本一の子どもづくりということで、ほかの議会から研修に来た。ただ、その来た方の議員のブログの感想を見ると、評判倒れだとか、表題どおりになってなかったとか、成果はあまりいいもんではなかったみたいな酷評を受けとるじゃないですか。だから、紛らわしいんですよ、そういうことでは。使わせてもらうん

だか、キャッチフレーズを使うってのはそういう意味で、大きな意味のスローガンですから、挙げた以上はしっかりしていただきたい、こういう意味なんですがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご指摘した点につきましては、重く受けとめておるわけでございまして、これからの教育の中でそういったところをしっかりと出していきたいと思っております。

○議長（倉又 稔君）

古畑議員の一般質問の途中ではありますが、昼食時限のため暫時休憩をいたします。

再開を午後１時とします。

午後０時００分 休憩

午後１時００分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

午前中に引き続き、一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○２０番（古畑浩一君）

それでは、ちょっと順番を１つ飛ばしまして、次、いじめ・不登校の実数の推移と対応について。これちょっと改めて聞きますけど、もう一度、ひすいルームや保健室など、不登校にカウントされない子供たちの実数、これちょっとお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

不登校傾向のお子さんですが、１０月末現在で、現在１３名になっております。不登校傾向、そして不登校の児童生徒合わせて２９名であります。適応指導教室に対応しているのが１４名、ひすいルームが４名、その他、家庭訪問等が１１名であります。

なお、昨年度の不登校傾向の数も１３名になっております。ひすいルームの入級の数、昨年度５名となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

次に、これも保坂議員がお聞きなった部分でちょっと気になるんですけど、糸魚川中学校でのいじめ事件、これ伊藤委員長の総務文教常任委員会の委員長報告にもありましたけども、陳謝、謝罪の会ですか、に至る経緯と結果、そしてそれにもかかわらず繰り返されたいじめとは一体どういうことなんですか。

それから、その際に言われた新たないじめというのは、何件あって、一体どのようなものなのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします

謝罪の経緯につきましては、これまでの学校と、そして教育委員会の対応ということにつきまして、調査委員会、専門委員会からも非常に不適切な対応があったということが指摘されておりますので、学校と教育委員会の対応について、その不適切さによって不登校、問題解決を長引かせたということにつきまして被害の保護者の方に謝罪を行ったということであります。学校の職員と、それから教育委員会の職員とで謝罪を述べたということであります。

それにもかかわらず、いじめ事案が発生してしまったということにつきまして、先日も非常に申しわけない思いでいっぱいだということをお伝えしたとおりであります、別の生徒によるからかい行為が判明をいたしました。

また、別の事案につきましても、からかい行為によって、別の生徒ですが、不登校になっているという事案であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これまでの同様の質問の中では、いじめを要因とする不登校はないという説明でなかったですか。答弁に食い違いがあるんですけど、これは一体全体どういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

先日の総務文教常任委員会のところでは、今年度いじめによる不登校は、その時点ではこちらのほうで認知をしておりますでしたが、その後、いじめによる不登校ということが認知をされまし

たので、今そのようにお答えをしたということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これが、しかもですね、0歳から18歳までの一貫教育の中では、不登校が減ったり、いじめが減ったということを、成果として先日の一般質問では語っていなかったですか、総務文教常任委員会ではなくて。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

成果としまして、不登校の発生数が減っているということは成果として答弁をさせていただきました。いじめの認知件数については、減っているということは申し上げていないかと思います。

ただ、課題として、いじめと不登校ということで苦しんでるお子さんがいるので、それについての対応をしっかりとしなければいけないということは課題であるというふうに述べております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これはやはり人権侵害に当たる。子供たちの本位の指導をした結果、またいじめが繰り返されるということについて、では指導に問題があったということになりませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

確かにそのとおりであります。教職員のいじめに対する認識が低かった点、そして教職員の指導が十分に生徒に届いていなかった、指導が十分でなかったという点は認めなければいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

さらに、子供と子供のいじめから発生した不登校、私のほうに新たな相談として、教師の指導が要因とする欠席や不登校という相談が来てる。こういった実態はあるのかどうかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

- 教育委員会こども教育課長（山本 修君）

不登校の原因につきましては、さまざまなものがございます。複合的に重なってるものがありますが、教師による、担任との関係性ということも報告が上っております。今年度ですと小学校1件、中学校で3件、そのことについての、そういうこともあるということが報告で上ってきております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

古畑議員。

- 20番（古畑浩一君）

そういうこともあるってどういうことですか。何でそれをじゃあ、ちゃんと原因の中に私から聞かれる前に答えることできなかったんですか。また隠蔽しとるんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

- 教育委員会こども教育課長（山本 修君）

先ほど教育長の答弁にありましたように、不登校の要因について学校に関する、かかわるものが4割というふうに申しました。学校にかかわるものの中には、いじめを除くような友人関係や教職員との関係、学業の不振ということが学校にかかわるものということでございます。十分に細かい説明をしなかった点をおわびしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

古畑議員。

- 20番（古畑浩一君）

これまでも、私が総務文教常任委員会にいたときから学校の先生が原因による不登校ということがあったということについて、これはもう子供対子供はもうもちろんですけども、教師が子供に対して不登校の原因をつくるというのは、ゆゆしき事態でしょ。小学校で1件、中学校で3件とありますけど、内容はどんなもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

- 教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

課題等のことにつきまして、教師のほうから児童生徒に注意をしたところ、その注意が非常に厳しく、厳し過ぎたということで生徒のほうから非常に精神的に先生がとても嫌だというようなこともあり、やっぱり教師と児童生徒との根本的な人間関係ということがないままに強い指導を行ったということが大きな原因かと思われます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

- 議長（倉又 稔君）

古畑議員。

+

○ 20番（古畑浩一君）

原因はわかった。じゃあどのように対処されるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

例年、県の教育委員会から上手な叱り方についてというようなパンフレットも出ております。子供たちへの体罰の防止ということも兼ねて、そういった指導資料も出ておりますので、そういったことも、指導資料も活用しての研修を校長会を通じて指導していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

どうしてそういう人ごとみたいな話になるんですか。先生はこれから直していけばいい。けど、それが原因で学校行けなくなった子というのは、その子の人生でどうなるんですか。私にいただいた相談は、平成26年、中2の女の子、9月に担任の先生より宿題をやらないなどの理由にクラス全員の前でどなるなど厳しい指導をしたことが原因で不登校になる。その後、9月3日に両親と校長、学年主任、担任等で面談して、先生が怖くて苦手なようで学校に行けないと相談してるんですよ。その後、どのように指導したか聞いていますか。それに、この事案はいつの時点で聞きましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

この事案につきましては、学校からの報告というのは受けておりませんでした。別のところからこの話を聞き、先々週ですか、私のほうで学校のほうに出向いて校長に事情を聞き、該当職員の指導について校長に指導をするようにしてきたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20番（古畑浩一君）

そういう事案があった場合には、教育委員会に速やかに報告するということになってませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

そのとおりであります、報告がなされなかった点、非常に遺憾に思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

そのときの指導がしてないから、今度はその子の親友で同級生の子が中3になってから同じように先生が怖くて嫌だった。不登校となって、ひすいルームに通う羽目になってる。中学校2年、平成26年の状態で解決しておけば、中学校3年の女の子が別の事件で、同じ原因で不登校にならなくたって済んだんじゃないですか。その責任、どうやって考えてるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

かけがえのない子供の人生、一度しかない人生について、教職員の言動によって、それが非常に傷つけられたこと、私自身も重く受けとめておりますし、校長・教職員に対しても子供たちを指導する、子供たちの幸せな生活を約束していくのが学校でありますので、そういった点、根本を忘れないように校長、そして教諭を指導していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

市長さあ、先ほども言ったけど、これからは教育の現場の長も兼ねていかなくちゃなんのですよ。先ほどの糸魚川中学校の不登校の事案、謝罪の会まで開いても新たないじめが発生している、からかいなど。それに付随して不登校が生じた。指導を強化している学校でさえ再発防止を防げなかった。そして、今また私が言ってるのは、今度は東中学校ですか、そこでは教師が原因で2件、しかも1件は早いうちにちゃんとした適切な指導をしていれば2件目の事例は防げたんですよ。これ何をしとるんですか。教育現場の怠慢でしょ。その子たちの人生はどうなるんですか。市長、教育長、それぞれどのようにお考えかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当にその案件の内容を聞いたときに、本当に愕然としました。今、いじめの問題でいろいろと協議し、みんなで検討しながら進めてきたことが、その現場では全然生きてなかったというのは非常に私としても遺憾に思っておる次第であります。そのようなことから、先般の早寝早起きおいしい朝ごはんフォーラムの中でも、陰山先生の講演を聞きながら改めていろんな、こんなことをしなくちゃいけないということを考えたわけでございまして、本当に直接被害にといいましょうか、対

+

応した子供さん、そしてまた親御さんに本当に申しわけなく思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

学校というのは、集団生活の場であり、集団学習の場であるということは、もう議員もご承知のことかと思えます。

ただ、その集団の中で子供たちを指導していくためには、一人一人の子供の個性をしっかりと把握した上で指導に当たっていくことが教育効果を上げることだと思ってるのに、今回の案件については、それをきちんと押さえることができなかった。非常に残念に思っております。再発した案件についても、その事実を聞いた段階で非常に驚きを持ちました。で、すぐ指導に入ったわけです。指導に入って、とにかく人権を重んじること。それから子供の中に入って、もっと子供と接しながらいろいろな情報を集めること。そういうようなことを指導してまいりました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

指導してまいりましたって、まいってないからこういうことになってるんじゃないですか。これは、糸魚川中学校の事案が出る前から、不登校やいじめのことについて、ずっと私は質問してきたし、不登校の要因は何かって聞き続けてきた。これは学校長が、いわゆる学校ぐるみで隠蔽したことになりゃせんですか、教師の指導による不登校の事案については。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

校長によって学校のことについての隠蔽というふうには、私は考えておりません。毎年度末、不登校・いじめについての調査がございますが、それについても不登校のきっかけというところで教師との人間関係とかいうところにも報告が上っておりますので、隠蔽ということではないというふうに受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

じゃあ教育委員会は、そういう事例はあったのを確認しておきながら黙認したということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

そのチェックが十分でなく、指導が十分でなかったということは申しわけなく思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これは、今回の相談相手はね、私の友人のお子さんだからさ。あのね、不登校というのは、学力のおくれとともに一生残る傷となるんですよ。もう1週間はともかく、もう1カ月、2カ月なんて休んでしまって学校に復帰したってね、今度学力がついていけなくて、今度取り残されて、また行けなくなるんですよ。じゃあこういう学力の低下、それに伴って志望した高校にも行けなくなる。またそれが傷となって高校に行っても不登校になってしまうんだ。そういう子供の心の傷はどうやって解決するんですか。知ってて、わかってて指導してこなかったって、どういうことなんですか。子供の気持ちになってみなさいよ。その子供を持つ親の気持ちになってくださいよ。おかしいでしょ。知ってて何も指導しなかったってどういうことですか。もう一回言ってください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

学校から報告があった案件につきましては、教育委員会のほうで各学校に出向き、校長に指導をしております。学校のほうで報告がありませんものにつきましては、こちらのほうでも把握はできませんが、学校のほうで子供たちの様子を見ながら、そして子供たちの不登校の要因についても分析をしながら正しく報告をなされているというふうに私のほうでは考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

しかしね、この後、再発防止を約束していながらですよ、依然としていじめも不登校も、それから給食の混入問題も、もう信用、そういったものを全て失墜させた責任というのは誰がとるんですか。

○議長（倉又 稔君）

誰か答弁してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

+

教育委員会内部で起こっている事柄ですので、教育委員会事務局の長である教育長が責任をとることになります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり最終的には市長の責任でもあると考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

これと全く同じこと9月やりましたよね。今まさにデジャビュのように同じ場面が再現されました。竹田教育長、お聞きしますけど、今回なぜ辞任を決意したんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

一身上の都合です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

一身上の都合で、何でこの時期なんですか。今までもあなたの責任問題は、ずっと追求してきたし、逆に当事者であった学校長や教育次長みたいな方々がやめてくときに、なぜそういう人事をせんらんかったことも、そういうことも私聞いてきましたよね。それで、最後ここで辞任するのは、ただ一身上の都合、一言で済ます気ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

一身上の都合、それから外れることはできないと思います。いろいろな事柄があったかとは思いますが、私自身では一身上の都合ということで、けりをつけていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20 番（古畑浩一君）

それで済むわけないでしょう。能生の民営保育園から始まって、給食費の不正問題、それから小学校や保育園の建設問題、ここに来て、いじめ問題、不登校の問題、そして給食の異物混入。たび重なる不祥事に対して、あなたはその事件が片づくまではやらせてくれってきた方じゃないんですか。じゃあ今回は、そういうことなんですか。単なる一身上の都合だけなら、まさに無責任な行為になりやせんですか。まだ責任は認めてます、だから私は辞任させてくれというほうがよっぽど格好いいと思うわ。そのほうが筋が通ります。納得できません、もう一回、答弁をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

一身上の都合の中には、そういうことも含まれているということをご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20 番（古畑浩一君）

一身上の都合に含まれているんなら自分の口で言ってくださいよ、大人なんだから。でね、この辞任が問題の解決には絶対になりません。問題も課題も残されたまんまじゃないですか。それを誰が引き継ぐんですか。今度は誰の責任になるんですか。新しい教育長の責任ですか。責任を果たさないでやめるということをどう考えてるんですか。納得のいく答弁くださいよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

今、答えたとおり、そういうことも含むということをご理解いただきたいと思います。

○ 20 番（古畑浩一君）

そういうことを自分の口で言えつつってるんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○ 20 番（古畑浩一君）

じゃあ市長は、何で今回の辞任届については受理を決めたんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

+

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も、今ほど教育長の言ったようにもろもろの事柄についてのそういった、やはり事柄についての責任というものを、この一身上の都合の中に感じたものがあるわけでございますので、それを諒としたわけであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

そら米田市長と竹田教育長は同級生です。あうんの呼吸で、そういうことで全部のめるかもしれませんが、市長、あなたは市長としての任命責任もあると思う。それについては、どうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりその責任によって、やはり今起きておる事柄については、しっかりと受けとめて対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古畑議員。

○20番（古畑浩一君）

教育委員会の一連の問題行動や課題は、子供も含めて多くの人を不幸にしました。その責任の取り方と決着につきましては、もう少し明らかにしていただきたい。それを強く要望して終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

次に、古川 昇議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

古川議員。〔8番 古川 昇君登壇〕

○8番（古川 昇君）

おはようございます。

市民ネット21、古川 昇であります。

発言通告書に基づきまして、1回目の質問を行います。

1、介護保険について。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年には5人に1人が75歳となり、「大介護時代」が来ます。介護保険制度の持続可能性を実現するため、公平性という点から2015年度の制度改正で